

圖版である。先づ地圖上に位置を示し、遠望や實測圖を入れ、次で實物全部及その拓本を収め、更に必要なる文字は殆んご實大と思はるゝ大きさの寫真と拓影とを併掲して以て研究者に實地に莅むが如き便宜を與へた事である。特に所要の文字一字のためにでも一枚の圖版を用ひた事は「精査」と言ふ名に耻ぢぬ近來の試みであると言へやう。(以上中村)

● 溫 故 雜 集

從來尾張國に於ける史料史蹟の探究踏査を行つた收穫の中極秀なるものを或は繪葉書に撮影し或は玻璃版に上せて發行し斯界に寄與する所が多かつた名古屋溫故會は今回又國寶弘法大師御入定勸決記、同七寺藏一切經、徳川侯爵家藏熱田社古圖、石河男爵家藏享元繪卷、情妙寺藏茶屋交趾貿易圖を四つ切大の玻璃版に附し溫故雜集と名づけて發行するこゝとなり、去る五月卅一日に其の第二一切經を頒布した。此經は尾張權守大中臣安長が發願して當時の能筆に書寫せしめたもので、安元元年寫經の事

を始め治承二年に終了したものである。本揖は其内の般若經の唐櫃、同中蓋表面の釋迦十六善神、般若菩薩十六善神、裏面の識語、唐櫃内の小函、經卷表紙、卷首、同裏面及び卷末を八枚の寫真とし之に解説を附してあつて、古文書、藝術の研究上少からず參考となるものである。(名古屋溫故會發行、非賣品)(松野)

● 二十史朔閏表 陳 垣 著

彙に元西域人華化考を著はして東洋史學の進運に寄與せられたる陳垣氏近頃の快著である。著者は北京大學にありて從來の支那史學の研究法の科學的ならざるを慨き恒に各種の研究を發表して必ず一隻眼あるを示して居る。夙に東西年紀の研究にも潛心して支那曆西洋曆回曆に關し考覈する所多しと聞く、本書は即ち其の一端を發表せるものにして、支那史朔閏の研究を目的とし西曆回曆を附載したるものである。宋の劉義叟の長曆に倣ひて漢高祖元年より起筆し、耶律儼の遼宋朔閏考錢侗の四史朔閏考、汪氏の長術清の萬年書は勿論、支那に存在する